

特集

お茶の水女子大学の行方…③
—すべての女性の望みの実現のために—

本田 和子 学長



法人化されたとは言い、国費で措置される国立大学は、タックスペイヤーたる国民に対して平易で簡明な説明責任を求められ

ることになる。すなわち、それぞれの大学は、国民と社会のニーズをいかにして吸い上げ、他と異なるどのような特色においてそれらのニーズに応え、国民と社会に貢献することが出来るかを、自らに問い、他に向けて説明しつつ、その責を果たすべく努力し続けねばならないのである。

本学は、前号、前々号の本誌で宣言したように、わが国最初の女子高等教育機関の伝統を踏まえて、女性の成長支援と資質能力の十全な開発を目標に掲げ、女子大学の道を選択しようとしている。学ぶ意欲に富み、指導的立場で世に立とうとする女性たちのために、より相応しい教育環境を提供しようとするのである。

小規模女子大の不利を承知の上で、あってその道を選ぶことになった経緯はおりに触れて述べてはきたが、重ねて繰り返すなら、本学を、いまを生きるすべての女性

たちにとつての「真摯な夢の実現の場」として機能させたいと願うからに他ならない。一七七年の本学の歴史が物語るように、創設以来の本学は、若い女性たちの学びへの願いと自己向上の夢に応えるべく惜しみない努力を続けてきたのだが、その営みの対象を、老若を問わず、また、国の内外を問わずとせず、「すべての女性」のために広げることこそが本学の今後の選択なのである。

「女性支援」を中心におき、「すべての女性」を視野に入れたことで、本学は、従来にましても、教育と研究以外にも新たな使命を担わざるを得なくなった。なぜなら、従来、女性たちは、男性と異なるライフスタイルの特異さと、それに起因する社会的不条理も災いして、自己実現の十分な機会を与えられぬままに、資質能力の十全な開発を妨げられることが稀ではなかった。その端的な現れが、妊娠や出産に由来する活動の休止であり、その後の社会復帰の困難さと結果としてのリタイアであろう。それら身体的差異に起因する当然の現象が、女性にとつて格別の不利益として結果しているたすれば、その不利益を軽減するための営みも、困難に直面した女性たちへの援助も、いずれも「女性支援」の具体的内容として今後の本学の目標と計画のなかに位置づけられねばならないのである。

産声を上げたばかりの学内保育施設も、ささやかながらその実現の一例である。男女を問わず、若い夫婦が育児と学業を両立

させることなど、本来は、珍しくもない日常的営為である筈であろうに、それが大変な困難事であったとは…。「女性支援」を、女子大学の自覚的目標に掲げたとき、私どもの視界には、当たり前のことが当たり前ではなかつた従来の大学の仕組みが、改善を要する事態として改めて浮かび上がってきたのであった。

世界的研究教育拠点形成のための重点的支援

「二十一世紀COEプログラム」採択される!

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程人間発達科学専攻(拠点リーダー)

研究実施スケジュール				
問題提起型シンポジウム	戦略研究型シンポジウム	中間報告シンポジウム	研究集約型シンポジウム	診断と提言シンポジウム
調査地点の抽出	質問紙調査の実施	データ分析	質問紙調査の実施	データ分析と診断
調査対象者の抽出	インタビューの実施	個別モデルの構築	インタビューの実施	総合モデルの構築
質問紙の選択と作成	行動データの抽出	資料収集の継続	シミュレーション実験	二次調査・実験の実施と分析
パイロット研究の開始	資料収集	中間報告書の作成	資料の分析と診断	二次調査・実験の準備
調査・実験の企画	一次調査・実験の実施と分析	データベースの構築と公開	二次調査・実験の準備	データベースの再構築と公開
1年	2年	3年	4年	5年

を(「観下さい」)

www.ocha.ac.jp

ホームページ (詳細は、大学)